四旬節第1主日　3月6日　分かち合い　　ルカ 4-8

「四旬節」という言葉は「40 日の期間」という意味ですね。その原型は主イエスが活動を始める前に、荒れ野で 40 日間の断食の日々を過ごされたという出来事にあります。そこで毎年、四旬節第一主日に、この箇所が読まれます。共観福音書はマタイ、マルコとルカ、それぞれ荒れ野での主イエスの出来事、言い換えれば、悪魔（サタン）の誘惑を受けながら荒れ野に 40 日間とどまった主イエスの出来事を語ります。今年の典礼は主日 C 年で、ルカ福音書が読まれているわけです。

さて、悪魔の誘惑は何でしょうか。皆さんは、毎年この箇所を聞いていますのでよく覚えていらっしゃるでしょう。まず、第一の誘惑は石をパンに変える力によって示される経済的な誘惑です。第二の誘惑はエルサレム神殿の屋根の端から飛び下り、天使に救ってもらうという考えによる見世物（みせもの）的な誘惑です。そして最後に、悪魔を拝む代わりに手に入る権力や支配などへの近道の誘惑です。これらの誘惑の順番はマタイ福音書に語られますが、ルカ福音書では、悪魔を拝む誘惑を他の二つの誘惑の間にはさんでいるという重要なポイントを示されています。これは偶像崇拝であるといい、神を礼拝する代わりに世間のことを楽しむことを選んで優先してしまうという大きな誘惑です。現代人である私たちにとって、この誘惑は本当に考えさせられることになったと思います。

主イエスはこうしたあらゆる誘惑をきっぱりと退け、罪や世の思いといっさい妥協することなく、御父が定めてくださった道に従い、聖書のみ言葉に基づいて悪魔と戦います。ここでは、主イエスの答え方に皆さんと一緒に注目したいと思います。まず、主イエスは、地上の楽園でエバがしたように、悪魔と対話することはしません。主イエスは、悪魔と対話することができないことをよく知っておられます。悪魔はずる賢いからです。だから主イエスは、エバがしたように悪魔と対話する代わりに、神のみ言葉のうちに逃れることを選び、神のみ言葉の力をもって答えるのです。したがって、私たちがさまざまな誘惑を受けるとき、悪魔と議論してはなりません。むしろ、つねに神のみ言葉によって身を守っている必要があるのです。そういう風に主イエスは今日の福音書の中で教えてくださいます。

それから、主イエスの答え方の中で、もう一つを注目していきたいと思います。それは悪魔との戦いのとき、自分の言葉でではなく、神のみ言葉をもって戦うならば、私たちは必ずその悪魔の誘惑に打ち勝つことができるというような主イエスのお招きです。神のみ言葉は悪魔を打ち破る力があるからです。だからこそ聖書に親しむことが重要なのですね。聖書を繰り返し読んで、それを黙想し、自分のものにしているならば、いつでも神のみ言葉を使うことできるでしょう。

とにかく、事実は、神のみ言葉をつねに心に抱いていれば、どんな誘惑も私たちを神から引き離せず、どんな障害も善の道からわたしたちをそらさせません。そして私たちは、自分の内側にも外にもある、日々の悪の誘いに打ち勝つすべを身に着け、聖霊のもとに新しい命を生き、兄弟姉妹、中でも一番の弱い者や困窮者、さらには自分の敵さえも、受け入れ、愛することができるではないかと思います。

どうか日々生活の中で悪魔の誘惑だと思うならば、まずその悪魔と対話する必要としないよう、そして聖書を開いていただければ、あるいは思い出されたみ言葉で祈っていただければ、場合によって、できるだけ早めに霊的な人と相談していただければ、悪魔の誘惑に打ち勝つことができると思います。神よ、主キリストの霊を私たちに送ってください、その霊は、主イエス・キリストに従うために私たちを導くようにお願いいたします。